

研究員 の眼

夫婦調査に見る 「学歴上位妻の台頭」

－生涯未婚データ考－

男性が背負わない結婚、という選択

生活研究部 研究員 天野 馨南子

(03)3512-1878 amano@nli-research.co.jp

【はじめに－高学歴女性は結婚できないのか】

筆者が2017年2月に発表した[「年の差婚」の希望と現実－未婚化・少子化社会データ検証－データが示す「年の差」希望の叶い方](#)、では、今や初婚カップルの4組に1組が年上妻カップルであり、さらに年上妻婚のうち「女性が4歳以上年上」が2位（6.5%）にランクインすることを紹介した。

この結果は、一般的な感覚からはかなりの驚きをもって捉えられたようである。

「団塊ジュニア」を含む40代より若い人口層で人口ピラミッドが逆三角形をとっている現在、日本の「人口マイノリティ化しつつある若い世代」で起こっていることや感覚に対して、「人口マジョリティの年輩陣」の理解の中に「大きな誤解」が生じる可能性が高まっていることを注意しなくてはならない。

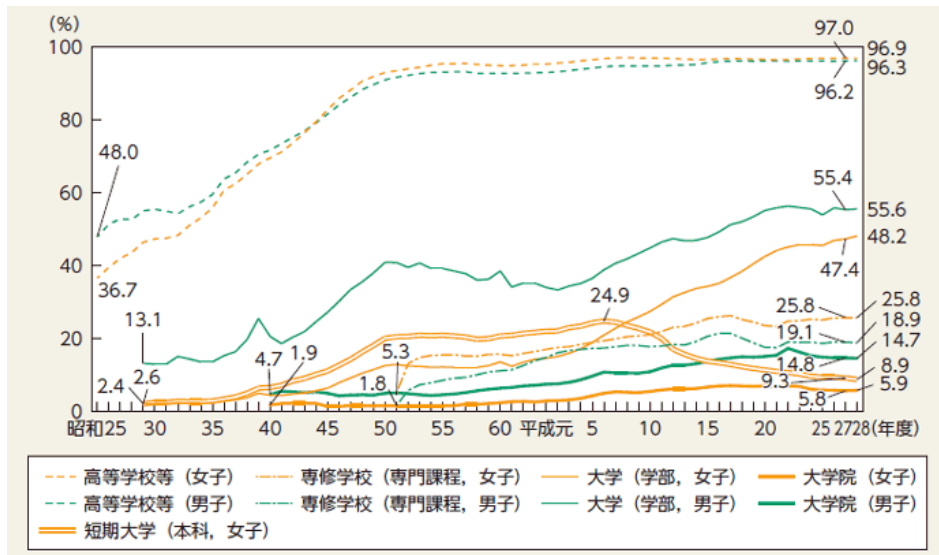
少数派となりつつある若手層の考え方を多数派である40代以上が自分の世代の恋愛・結婚観で捕らえて評価したり、意見をしたりしてしまうことによって、若手層を巻き込むつもりが全くの的外れとなってしまうかねないことも少なからず起こりうるだろう。

本稿では、「女性が高学歴化したから」結婚できなくなったのではないか、未婚化が進んでいるのではないか、という議論を取り上げて、少し深堀りをしてみたい。筆者を含めた団塊ジュニア世代ではかなり一般的な「結婚が難しくなる理由」によくある議論ではあるが、今の時代においては、果たしてデータから見るとどのような状況か、印象論を排して確認することとしたい。

【女性の大学進学率と結婚状況】

「女性が高学歴化したから」という状況をまずは大学進学率でみてみると、最新の2016年における女性の大学進学率は48.2%、短大進学率は8.9%であるⁱ（図表1）。両者をあわせると57%の女性が大学や短大に進学したことになる。

【図表1】 学校種類別進学率の推移



資料) 内閣府「男女共同参画白書 平成29年年版」より転載

一方で、データは少々古くなるが、2010年の国の夫婦調査ⁱⁱのデータを使用して最新ベース（2005年以降の結婚年のカップル）での「妻と夫の最終学歴マトリックス表」を作成し、妻の最終学歴の割合と妻の学歴別に夫の学歴割合を算出してみたところ、図表2のような結果となった。

【図表2】 妻の最終学歴別 夫の最終学歴マトリックス表 (%)

	夫の学歴	割合		夫の学歴	割合
中卒妻 妻全体の3.6%	中卒	26.7	短大・高専卒妻 21.7%	中卒	1.5
	高卒	55.6		高卒	27.3
	専門卒	4.4		専門卒	14.8
	短大高専卒	-		短大高専卒	8.5
	大卒	11.1		大卒	41.7
高卒妻 29.5%	院卒	-	院卒	4.1	
	中卒	8.4	大卒妻 24.7%	中卒	0.3
	高卒	51.2		高卒	16.2
	専門卒	12.2		専門卒	7.8
	短大高専卒	4.6		短大高専卒	3.2
大卒	22.2	大卒		57.9	
専門卒妻 17.1%	院卒	0.8	院卒	14.2	
	中卒	2.8	院卒妻 2.2%	中卒	-
	高卒	28.5		高卒	7.1
	専門卒	22.0		専門卒	-
	短大高専卒	6.1		短大高専卒	3.6
大卒	34.1	大卒		46.4	
	院卒	5.6	院卒	42.9	

資料) 社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（夫婦調査）」より筆者作成
2005年以降婚姻の合計より作成

図表 2 を見ると、短大卒以上（短大・高専卒妻、大卒妻、院卒妻の合計）の妻が全体の 49% となっている。この夫婦調査時点の 2010 年の短大・大学等進学率は 56% である。

女性の 56% が短大以上に進学しているのに、妻の短大卒以上割合が 49%、と言うのは、一見「高卒までの学歴の女性の方が結婚している？」かのように見える。

しかし短大等への進学時点と結婚時点では、進学時点で結婚しない限り、時差が生じる。

図表 2 の夫婦調査が実施された 2010 年における女性の平均初婚年齢を確認してみると、国の統計で平均 28.8 歳であった。

とすると、女性は最終学歴卒業後、平均して、高卒妻であれば約 11 年、大卒妻であれば約 7 年経過してから結婚しているという計算になる。

つまり、結婚というライフイベントのおよそ 10 年前の短大以上進学率と比較して、高学歴が女性に与える影響については見なければならぬ、ということになる。

あらためて、夫婦調査から 10 年さかのぼった 2000 年の女性の大学進学率をみると、大学への進学が 31.5%、短大等への進学が 17.2% となり、あわせて 49% ということになる。

以上から、2010 年の夫婦調査時点においては

10 年前に大学・短大等へ進学した平均 28 歳の女性の短大・大学等進学率（学校基本調査）
＝ 夫婦調査における短大卒学歴以上の妻の割合（出生動向基本調査）

となり、高学歴女性（ここでは短大卒以上）の結婚に対する有利・不利は、データからは特に読み取れない（有利でも不利でもない）、という結果であった。

以上から、「高学歴女性が結婚に不利」「高学歴女性が増えたから未婚化している」という感覚は、妻の高学歴比率が進学比率と一致していることから見て、事実誤認である、といえるだろう。

【妻が学歴上位の夫婦の割合】

図表 2 をみて、想像するよりも「夫よりも妻の学歴が高いカップルが多い」ように感じられる人は少なくないのではないだろうか。

日本においては、歴史的には男性が学歴も社会的地位も年齢も高い「(男性) 上位婚」(以下、上位婚) とよばれる結婚形態が主流であった。しかしながら [「年の差婚」の希望と現実—未婚化・少子化社会データ検証—データが示す「年の差」希望の叶い方](#) でも示したように、より価値観の近い同年齢婚や伝統的価値観を覆す年上妻婚が近年では大きくその割合を伸ばしてきている。

そこで、伝統的な上位婚とは異なる「学歴上位妻婚」の状況を算出してみることにした（図表3）。

【図表3】学歴上位妻の割合（2005年から5年間（上）と1985年から5年間（下）の比較）

		2005年以降の状況								
結婚年／妻の学歴	総数	夫の学歴								
		中学校	高校（共学）	高校（別学）	専修学校	短大・高専	大学	大学院	その他	不詳
2005年以降										
総数	1249	55	346	57	160	64	469	82	6	10
中学校	45	12	22	3	2	0	5	0	1	0
高校（共学）	283	25	129	15	34	11	65	2	1	1
高校（別学）	86	6	38	7	11	6	17	1	0	0
専修学校（高卒後）	214	6	46	15	47	13	73	12	1	1
短大・高専	271	4	63	11	40	23	113	11	2	4
女子大学	78	0	11	3	9	2	45	7	1	0
大学（共学）	231	1	34	2	15	8	134	37	0	0
大学院	28	0	2	0	0	1	13	12	0	0
その他	3	0	1	0	0	0	2	0	0	0
不詳	10	1	0	1	2	0	2	0	0	4
妻が学歴上位		42	156	31	64	11	13	合計	317	
										全体の 25.4%
		1985-1989年の状況								
結婚年／妻の学歴	総数	夫の学歴								
		中学校	高校（共学）	高校（別学）	専修学校	短大・高専	大学	大学院	その他	不詳
1985～1989年										
総数	932	62	321	121	58	43	290	26	2	9
中学校	23	11	7	3	0	0	2	0	0	0
高校（共学）	355	33	178	44	22	12	62	2	1	1
高校（別学）	155	9	62	40	3	7	31	1	0	2
専修学校（高卒後）	105	6	27	16	17	6	29	1	1	2
短大・高専	189	1	42	14	15	14	98	4	0	1
女子大学	27	0	3	0	0	1	20	3	0	0
大学（共学）	65	2	1	2	1	3	45	10	0	1
大学院	8	0	0	0	0	0	3	5	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	5	0	1	2	0	0	0	0	0	2
妻が学歴上位		51	73	32	16	4	3	合計	179	
										全体の 19.2%

資料）社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（夫婦調査）」より筆者作成

データからは既に4組に1組以上の割合で妻の学歴が上位の結婚が成立している、ことがわかる。

読者にとって、それよりも意外な結果であると思われるデータとして、既に1980年代後半から5組に1組が学歴上位妻婚であった、ということも判明した。

今一度、図表2をみると、2010年の調査において、大卒妻の約3割が高卒以下の学歴の男性と結婚している。大卒であっても男性の学歴にこだわらないと見られる女性が約3割も「既婚者にはいる」と言う結果である。また、男女とも高校進学率が限りなく100%に近づいている現在、高卒女

性が学歴下位の中卒男性を結婚相手として検討することがそもそも確率的に困難であることを考えると、もしかすると 25%よりも高い割合の男女が「上位婚」にこだわらなくなっている可能性さえも指摘できるのではないだろうか。

【オーダーメイド結婚の可能性】

人口ピラミッドの上半分、多数派を占める 40 代以上の人々から見ると、以上の分析結果は明らかに結婚観・結婚の姿が変化しつつあることを示している。

「僕が彼女を支えてあげないといけない」

「彼にリードして欲しい、ついていきたい」

確かにこれらの感覚も結婚観として否定されるものではない。

しかしながら、4 組に 1 組という「学歴上位妻の台頭」という分析結果は、結婚希望がありつつも未婚で悩む独身者や彼らの結婚を応援する周囲の環境に、「結婚観のダイバーシティの壁」が立ちほだかっている面もあるのではないかと示唆しているようにもみえる。

少なくとも本稿の結果を見て意外であると感じた人には「結婚観のダイバーシティの壁」は存在していた側面はあるだろう。

結婚の夢が叶うか叶わないかの境界線に見え隠れする「結婚観のダイバーシティの壁」。

結婚を希望しつつも未婚者が急増する中で、結婚希望者は、たった一度の人生「自分だけのオーダーメイドの結婚」を（親や社会の伝統的価値感に流されず）本当に追求できているのかどうか、今一度考えてみるのもよいかもしれない。

ⁱ 内閣府「男女共同参画白書 平成 29 年度版」

ⁱⁱ 国立社会保障・人口問題研究所「第 14 回出生動向基本調査（夫婦調査）」